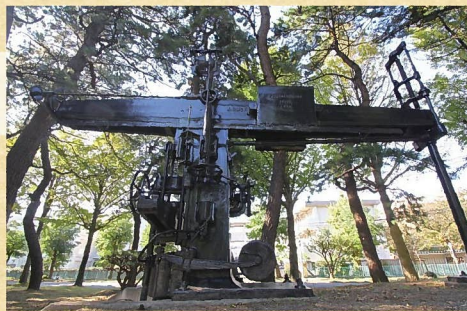


# 明治専門学校時代の機械群

経済産業省認定  
近代化産業遺産

## バクトン引張試験機

最大容量10トンで、曲げ試験も可能な引張・圧縮試験機です。  
現存する鋳物製の引張試験機としては国内最大で、かつ最も古いといわれています。



## 平削り盤

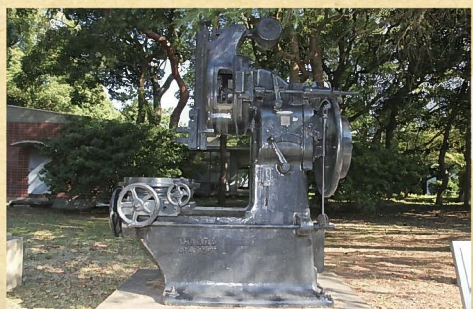
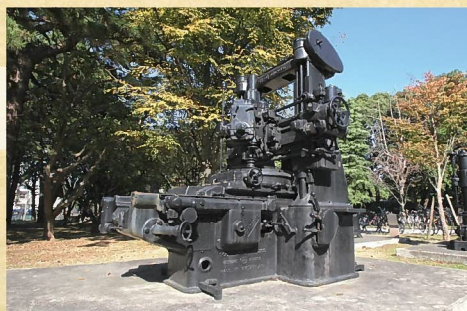
経済産業省認定  
近代化産業遺産

昭和初期(1930年代)、AMERICAN TOOL WORKS社が製造したベルト掛けの工作機械です。当時は、広い平面を高精度に加工可能な機械として価値の高いものでした。

経済産業省認定  
近代化産業遺産

## 治具ボーラー

治具(jig)とは、工作物を固定したり切削工具などの案内をする器具のことで、昭和初期(1930年代)、精密機械メーカーとして名高いSIP社(スイス)が高精度な中ぐり加工用として製造しました。当時としては、性能、精度ともに世界の一流品として名高い、最新の工作機械でした。



## 立て型削り盤

経済産業省認定  
近代化産業遺産

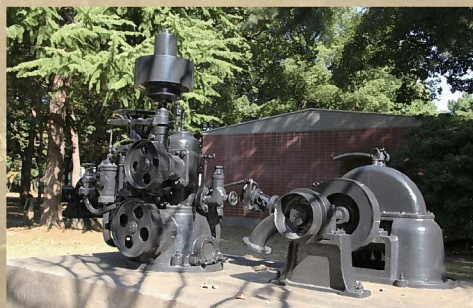
垂直往復運動するラム(ram、直動機構)に取り付けたカッター(切削工具)を使用して、主として溝削り加工を行う工作機械で、昭和20年代初期に工作実習用として外国から購入したものです。



経済産業省認定  
近代化産業遺産

## 回転変流器

交流を直流に変換する装置で、水銀整流器を経て電力用半導体の出現によって、現在では使用されていませんが、強靱で大電力を得られることから一時代を築きました。



## ペルトン水車

経済産業省認定  
近代化産業遺産

導入管から導いた水をノズルから噴出して回転翼車周辺のポケットに衝突させて回転させる水車です。

経済産業省認定  
近代化産業遺産

## 往復動型空気圧縮機

この圧縮機は、指圧線図採取用の計器を備え、その軸動力は、直流の反動動力計(reaction dynamometer)によって測定されました。  
昭和40年ごろまで機械工学科の学生実験用に使われていました。



九州工業大学戸畑キャンパス正門を入つてすぐの、歴史を感じさせる松林の中に明治専門学校時代に使用されていた機械類が展示されています。海外から輸入された当時の先端機械や初期の国産機械類で、日本の産業近代化を支えた技術者教育の歩みを知る貴重な資料となっています。